



1991年11月30日発行

郵便振替 小樽1-570 加入者名 あいら規

No. 154	あいら規連絡先	今月通信担当
	細田英理子 TEL 644-2789	細田

今月の内容

11月例会報告 ... 1.2	フェミニズム講座 に参加して ... 6
女たちのキャンプ上映 会を終えて ... 3	高齢者福祉は 人にお金 ... 7.8
基礎体温測定 のすすめ ... 4.5	情報 ... 8

通信購読料 年間1800円

議会に新風を吹き込んでゆく

11月
例会
報告

今夏、あいら規では、道警の職員募集ポスターが性差別を助長する
として抗議した。10月には市議会でも山口たか議員が「花魁道中」のPR
問題を質問した。「遊郭の歴史の中には目を覆いたがる悲惨なできごと
もあった」と述べると自民党議員席から「女は喜んでいい」「それモ歴史だ」などのマジカ相次いだ
という。この新聞記事を見て「うおが女性議員が居るとこんな質問も出せるのか」と声援を
送る一方、このオジサンたちの冷笑、マジカは黙って見おせぬ、と思っていた。数日後、他の
女性団体からの誘いのおかげで、急拠、市議会議長、副議長、自民党議員団に、「マジカ
議会の品位をおとしめ、女性への視に満ちた差別発言である。当該議員の釈明、および議会の
陳謝を強く要請する」という申し入れを行った。この一連の動きから、市民派議員の
誕生で市議会にどんな変化が生まれているのか、よく知りたて

山口たか 市会議員をお招きして例会をもった。

たかさんのお話の中で驚いたのが、「行政サイドで何を質問するか、事前に聞きに
来る。答に、調べなければわからないような事もある時には大抵の内容を知らせる。すべ
たには想定問答が出来上がってくる。自分には必要ないのでお返しする」という
もの。議会は台本通りに進む一種のセレモニーに「お下がりしているのだ
ろうか。(そういえば台本の一部を忘れて、マゴツイテイタ 総理大臣が何人かはいました。)

又、市議会の「慣行」というのがあって、市民ネットの3人は、そんなものは知らないから、
一般常識でやろうとすると「『慣行』も知らないのか!?!」ということになるそうである。

しかし、そんなくさりきた、又は、くさりかけた慣行なんてクソ喰らえ、と新風を

とんとん吹雪込んでもらいたいものだ。

今回の「花魁道中」の一件でも事前にいろいろあり、それまで質問をやめないと知りや「そんな質問をすと、先生の品位にかかわりますよ」とまで言われたとか。今までは男社会も出しの市議会だったのだから、何人かの女性議員はいても男的思考を余議なくされてきたのかもしれない。今回、初めて女性の立場にたつて物と言える女性議員が誕生しようと思う。「花魁道中」の質問に関して、女性市取員からは「失感の極み、頑強の極み」という声も多く、又、男性議員から「そんな考え方もあるんだな」という声も聞かれた。という。人の足を踏んつけていて、相手が「痛い」と言ったとき、「悪かた」と気まず、足をおろすと「痛いはずがない」と踏みつけている人と二通りあると思う。私たちは、お、痛い」といって相手に伝え、お、おの痛みを共に取り除こうとする男性を増やしていくことも大きな力となるだろう。

今後市民派議員誕生に私たちの微力を尽くしたいと思ってる。
最後に率直な意見をひとつ。

議員報酬は市民ネットに入り、議員個人が自由に使えるのは30万円
でも生活費としてではなく議員活動費として。であれば、議員の生活者としての視点か、あくまでも「夫(主人)の経済力の上に成り立っていること」になる。生活者——単身者、未婚の母、母子家庭等、自分の稼いで生活している者への視点か(はずれたり)、視野から外れたりはしないだろうか。



12月 忘年会 案内



ふだん
なかなか出られ
ない人も是非参加
してネ!

- ・ 12月7日(土) PM 6:00 ~
- ・ 細田宅(西区琴似1条6丁目グランドハイブ琴似408)
TEL 644-2927
- ・ 会費 3,200円 (去年おいしいと好評だった「りんごの木」の料理を頼みました)
- ・ 参加者は12/5(木)までに連絡を!

※ あごらも今年はず外に向けていろいろ行動した年でした。そんなこんなを振り返ったり、近況含めていろいろ語り合いましょう!



わたしたちのキャンプ上映会

を終えて(谷 吟)

11月9日「グリーンナムコモン女たち」と「六ヶ所村ウラン搬入」の2つのビデオ上映会を主催した。参加者は15名というさみしきであったが、画面からほとぼるエネルギーはそうとうなもので臨場感もさることながら、いろいろと

「六ヶ所村」のビデオは9月27日、アメリカから東京電力発注のウランが着いた日の行動と大井埠頭からの「追っかけ」から現地の阻止行動を撮ったものである。

この日にさなえて青森県六ヶ所村新納内屋では、9月10から10月9日まで全国から女たちが集りホーステントを張った。私も通いでこの間4回往復して、このテントに参加した。原則としてただけで、家族持ちのつれあいは「オープンテント」住まい。Xdayにさなえて非暴力トレーニングを数回受け、グリーンシアターも行った。3度の台風でテントがへんだり厳しい事があったが、女たちはのびやかに、Xdayの計画を練ったり、何故女たちがやるか、話し込んだ。

六ヶ所について先日グリーンナムから帰ったという近藤和子さんに会った。今でも5、6人ではあるが、テントは続いているという。1981年9月から、もう10年になる。ピーク時で2万人というから20人という私たちとの違いは比べものにならない。私たちのテントは20人で子持ち3人、八月の妊婦もいて、数名の男たちに協力を求めたし、マスクミ対策もやった。しかしと私は又グリーンナムを見せようか、彼女たちは一切の権力を否定してやっていた。

法律をつくるのも男、戦争をするのも男、女たちに安全な夜とレイトのない夜を返せと歌っている。協力しようというマスクミに對しても都合のいい時はばかりやって来て何よ、「一緒に産みなさいよ」と厳しい。六ヶ所村のテントで、何故、日本中のフェミニズムのグループも、反原発、反核燃で立ち上がらないのか、話題になった。私も思うには、日本ではまた「また」個人でやる運動が未成熟で、人に頼る面が大きい。政治家とか、国会とか、選挙とか、組合(男)を過大評価するのはどうやめて、非暴力直接行動に身を挺する覚悟がないと、プロも原発を止まらないうところに来ているのではなにか?! 今、全国で非暴力直接行動を起そうという話もある。トレーニングを受けたいは悪いことはない。テントの仲間のおさんやMさんはビデオ上映を各地で行い、六ヶ所の現実を伝えている。私も一回くらいの上映でめげずに道内をまわることにした。札幌から六ヶ所行動に参加した数名で文集を作った。1部200円。読んで下さい。



□ 基礎体温測定のすすめ □

木神



私は数年前から基礎体温表をつけている。一時はつけるのが楽しみで、友人に「基礎体温測るの、私のシュミなの。」とまで言っていたことがある。

初めてつけたいと思ったのは、中三の保健体育か、高一の家庭科の授業でだったと思う。そのことを母に話したときの、母の反応は「でも、私もつけたことあるけど、毎朝六時に起きなきゃいけないからたいへんだよ」だった。私は「そうだね…それじゃあきっとムリだよ」と答え、それっきりになってしまった。

今思うと、母の口調には『そんなものつけてほしくない、やめなさい』というトーンがあったように思う。なんとなく、それはやましいこと、ないしはいやらしいことといったニュアンスを受け取ったように思う。たぶん私はそれに反応して、母の期待しているであろう返事を返したのだ。—— ついでに言うと大学当時のBFの反応も「避妊に使うの？」で、そう言われたことを母に言ったら（言ったんだよ、これが!）「そうでしょ、普通みんなそう思うんだから、あまり人に言うんじゃない」と言われた（大人への性教育の必要性も痛感します）。

そして実際につけ始めたのは、大学を卒業して就職が決まる少し前。月経周期が多少狂ってきていてちょっと心配なのでという口実——大義名分ができてからのことだった。（実はこのときつけたいと思った動機は、自分は子供を産める身体なんだろうかという不安があったからなのだけど、その不安の中身は、例えば避妊にきゅうきゅうとしていて、いざ産みたいと思ったときに実は産めませんでしたなんて、じゃそれまでの苦労は何だったのなんてことになるのは馬鹿らしいというか情けないものがあるというようなものだったりする…本音。）



さて、ようやく体温を測り始めて五カ月経過。が、ずっと鋭いノコギリの歯状の線が続くばかりで、話に聞く二相性なんかまったくない。体温計くわえたまま眠ってしまって口から外れていたりするので、そのせいかとも思い、1分で測れてブザーの鳴るデジタル体温計にかえてみた。が、やっぱりノコギリ状のまま（ちなみに婦人科へは行ったが、それに関しては特に治療はしなかった…と思う）。

それから測るのを中断して1～2年経過。再度測り始めたら、今度はちゃんと高温期と低温期の二相があるじゃないですか。やったじゃ～ん♡

リズムがちゃんと現れてみると、今度はとっても測るのが楽しい（毎日ウキウキ♡



なんたって長いノコギリ状態のあとですから…うれしさもひとしおなのよ。高温期と低温期の、高くあるべきときには高い体温（私の場合は36度7～8分だった）、低くあるべきときには低い体温（同じく、36度1～2分）であることを毎朝確認できたり、高温期から急にかくんと（でも36度4分くらい）下がった当日か次の日あたりにちゃんと月経が始まったりすると、もううれしくて。「あ～、私は健康なんだなあ♡」なんて、毎朝わくわくしてた。

ところで、この基礎体温測る上で知っておいてよかったと思ったことが二つある。一つは、よく市販の基礎体温表にある、36度7分のところに引いてあるラインにはあまりイミがないということ（体温には個人差があるから）。

もう一つは、低温期から高温期に移行するとき、体温がかくんと下がる（その日が排卵日）というけど、そうなる人は10人に1人くらいだろうということ（澤田喜彰著「テキスト女性のからだ」より）。

実際私は、高温期でもこのラインすれすれだし、低温期と高温期の境で体温が陥落したりすることはまずないので、高温期がないんじゃないかとか、排卵してないんじゃないかなんて余計な不安をもたずにすんでよかったと思う。

さらに基礎体温測ってわかったこと——月経と月経の間のちょうど中頃（多分排卵日前後なんでしょうが）、おりものが増えたり、いらいらしたりしていて、さらには吐き気がしたり、一日中眠ってばかりいたりするのもこの時期だったんだとわかった。

これは私にとってめっけものだった。これは生理のせいなんだからと思うと安心していられる。自分を責めたり、不安に思ったりしなくてすむ。

さらにさらに、このリズムは精神的なストレスにも、モロ影響受けるんだということもしっかりわかった。ある時期、バイトしていた2カ月の間、本人は特に感じてなかったつもりなのに、後から基礎体温表を見してみると、きっちりその期間リズムが狂っていて、二相性のないノコギリの歯状態だったのには笑ってしまった。

ああ、ストレスだったんだなあって。

身体は正直だ——そしてけなげだ。

そのとき私はそんな自分の身体をなんてかわいい、そしてとてもいとおしいと感じてしまった。

月経のリズムは身体と心の健康状態、ストレス状態を知るためのバロメーターとなる。

「“重荷”を抱えた女の身体」ではなく、

「けなげで正直な愛しい私の身体」と思える。

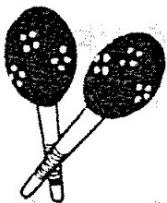
——自分の身体を愛しいと思える自分すら愛しい。



フェミニズム講座に 参加して

8月末から10月にかけて、自由学校「遊」主催で6回のフェミニズム講座がひらかれた。私は6回共出席したが、毎回30人以上の人が集まり、なかなか盛況だった。私は3回目の「女性の人権と性」の講座を担当した。大変だったが、自身これを機会に今まで漠然と考えていたことをある程度整理することができ、関ってよかったと思っている。

“性、セックスにおける男女の対等な関係”という問題はフェミニズムの中でもとても重要な問題で、女性の人権を考える時のキーポイントになるものだとは私は思っている。



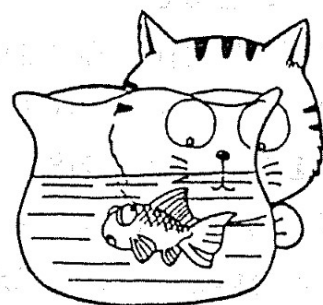
法や制度などの目に見えるあからさまな女性差別は減ってきたと思うが意識の面ではまだまだで、特に“性”に関することはオープンに語られにくい問題でもあり、一番意識が遅れているところだと思う。まだまだ男性本位の性常識がまかり通っている。あまりに長い間男性優位の文化が続いてきたため、私達女性自身もそれが当たり前だと思ってきた部分があるからだ。

それで講座では「レイプ神話」を例にして、今までの性は男の視点で語られてきたのではないかという話を主にした。あと後半は最近何かと話題になることの多い性差別ポスター、CMの批判やポルノ批判運動などについて簡単にふれた。

ちょうど“あごら”が道警のポスターに抗議した直後だったので、ディスカッションでももつばらその「性の商品化」のことが話題になり、さまざまな意見が出された。“あごら”でもこういうことを例会でとりあげてよく話し合いをするが、残念なからいつも少人数である。今回のように大勢の人達とさまざまな角度から話が出来たことはとても有意義だったと思う。

6回共なかなか面白かったので、来年も引き続き“遊”でフェミニズムの講座を企画してほしいものだ！

(細田英理子)



高齢者福祉は人にお金を!!

松平明美

「私達は、フィリピンやパキスタン、それにイラシの女性に老後を見てもらいます。今のままだとそうなりますよ。よくわかります。それをどうするかわかる。桂さん、あなたは今考へなければならぬのは。結論は、女性が解放されていなければ、今の日本の老人問題は非常に深刻である。札幌大には女性の教授が少ないからです。させないからですよ。」

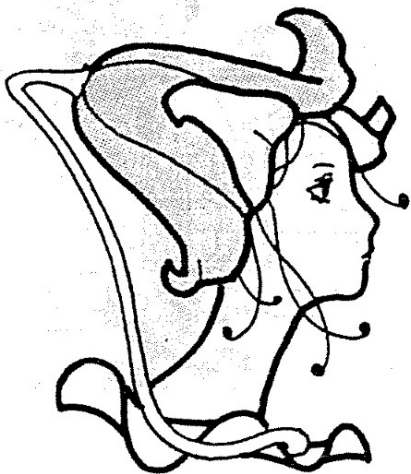
ホォーッという感じで前田先生の話が始まった。今まで聞いたことなかったという事で自分の世界の狭さを思い知らされた。

「女性の声は弱いため、女性と一緒に声を出す男性の声は弱いため、私達にはたった74人のヘルパーしかいないんです。看護や介護をする人に、男性がどんどん入って欲しい。男性と女性が力を合わせなければ、絶対のりきれない。男性が福祉に勤めなければならぬんですよ。」

スライドを使った講演の中で、世界中で、そして日本各地でも、行政を動かして福祉の現場でがんばっている人々を次々に紹介されていた。

「私達のしなければならぬことは、お金を取ってくること。そして地球で生きる人のところへ一番いい人に来てもらうなければならぬ。桂市長は答弁はするが、一歩も動いていない。何に金を使っているかわからない。札幌は世界で一番薬に金を使っているのに、しかしそれが選挙の争点にならぬ。札幌は、世界で一番お金の余裕がある町だということに自覚すべきです。市民運動をほいほいとやらうと派手な人達か他の団体と手をたないで、我々がやりなさいのです。」

会場は熱い、ほい空気で満たされ、皆先生の話に向き合っていた。



講演の始り前に、重兼房子の講演について話し合っていた人女いた。
 「樋口恵子さんは、よく『経済的自立』といけれど、経済的自立をしておくと精神的に自立できると言っているよ」その時もうお話を合、いた。自分や自分の娘、ついでに嫁も、選択の結果として主婦をという。しかし、能力のある人はだんぱら、教授にでも何でもしてみたい。そういった生き方をその子にしてみたい、果して手をたいて行動を起すことができるといい。「そんなこと、できなければいいよ」といへば簡単だけれど。

北海道の高齢化社会をよくなる女性の会 主催
 「高齢社会をよくなる人々」〔講演：前田信雄先生（九州医大教授）〕を聴いて記す。

INFORMATION

★「メッセージfrom 六ヶ所」

- ・後藤ひとみコンサート・島田恵のスライドと語り
 - ・写真展・バザー（これは10:00~19:00）
- 12/6 (金) 10:00~12:00 18:30~20:30
- 北光教会にて (大通市) 入場料 300円
- 主催 1-1-1 核のゴミ捨て場1万人フェスティバル世話人会

★「向井承子講演会」

(作家で「小思病棟の子とまき」の著者)

12/7 (土) 11:45~ 教育会館にて

主催 北教組看護教育部・婦人部

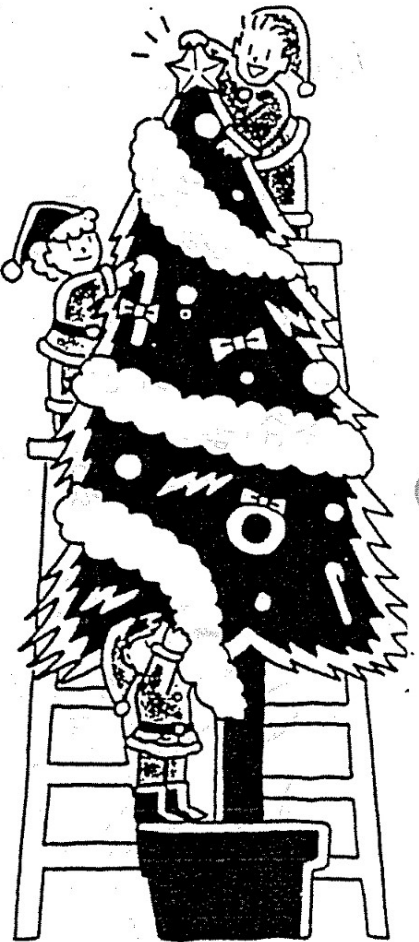
★「心の叫びを聞いて下さい」

— 少年非行を考える市民フォーラム —

① “うちの子はかかって!” (講演) 「苦悩する少年と村津人」 山田真理子

12/13 (金) 6:30~ 札幌市教育文化会館にて (北条西3丁目)

主催 札幌弁護士会



あとがき 今の所、確実に通信を担当できるのは4人! すぐ川原君が回ってきちゃう。(エリコ)